

地域保健対策において、ソーシャル・キャピタル活用を進めるための具体的方策について(論点案)

【前提】

○ 本検討会では、これまで、地域保健を取り巻く環境の変化及び多様化・高度化する住民ニーズに対応するため、今後の地域保健対策においては、地域のソーシャル・キャピタルを積極的に活用することが不可欠であるとの議論を行ってきた。

○ その具体的な視点として、以下について検討してきたところである。

- ・地縁や志で結ばれたソーシャル・キャピタルの「核」となる人材等との協働
- ・学校や企業等のソーシャル・キャピタルの場の新たな活用

【論点案】

ソーシャル・キャピタルの活用を進めるための具体的方策として次の事項を検討してはどうか。

1. 地縁や志で結ばれたソーシャル・キャピタルの「核」となる人材との協働

○ 保健活動推進員や食生活改善推進員等による地域の健康づくりの取組みとともに、近年、がん患者支援等において、がん経験者らのピアサポーターによる取組みが広がっている。

● ソーシャル・キャピタルの「核」となる人材の姿として、健康課題解決に向けた強い動機や知識を持つ方々を描き、一つの例として、行政が関連する情報の提供や活動を進める上での支援を行ってはどうか。

2. 学校や企業等の場の新たな活用

○ 学校では、学校保健を推進するための組織として、既に地域保健関係者も参加する学校保健委員会が広く設置されるとともに、中学校区毎の「地域学校保健委員会」や市町村レベルの「学校地域保健連携推進協議会」設置の必要性も指摘※されている。※平成20年1月中央教育審議答申

● 地域保健担当部局から、これら学校関係者との協議の場に積極的に加わり、学校と連携した取組みを進めてはどうか。

○ 企業においても、社会的責任(CSR)の意識に基づき、住民の健康に資する取組みを進める動きが広がっている。

● 地域保健担当部局により、広く、地域の企業活動の把握・評価や住民への周知等がなされるようにするため、国においてガイドライン等を検討し、示すこととしてはどうか。